

プレスリリース

2021年11月18日
国境なき医師団 (MSF)

地中海：世界で最も過酷な移民ルートで新たに 10 人が死亡

リビアから欧州を目指し、命がけで地中海を渡る移民・難民の海難捜索救助を行う国境なき医師団 (MSF) は 11 月 16 日、救助した木造船内で 10 人が死亡しているのを発見した。MSF の捜索救助船「ジオ・バレンツ号」は、リビア沿岸から 30 海里内で活動中、海上遭難時の緊急連絡を受ける民間団体「アラーム・フォーン」と、民間の偵察機「シーバード」から、浸水している木造船があると連絡を受け、現場に急行、99 人を救助したが、10 人の発見は手遅れだった。MSF は地中海中央部の海域が、移民・難民が命を落とす最も危険なルートになったことは、欧州政治の怠慢によるもので、恥ずべきことだと批判する。

救えなかった 10 人の命

当日、MSF のチームは 99 人を無事に救助した後、生存者から下甲板にもっと多くの人が詰め込まれていて、話しかけても反応がないと知らされた。救助隊はその後 10 人の遺体を発見。救助された人によると、亡くなった人びとは狭い船の下甲板で 13 時間以上も過ごしており、そこには燃料のような異臭が充満していたため、窒息死したと思われるという。

ジオ・バレンツ号で MSF の副捜索救助チームリーダーを務めるフルビア・コンテは、「陸に着いたらきちんとした形で埋葬できるように、2 時間ほどかけて遺体をジオ・バレンツ号に乗せました。恐ろしさと同時に怒りがこみ上げました。避けられたはずの海の悲劇です」と憤る。

木造船から救助された最後の生存者、アブドゥライエさん（仮名）は、仲間たちに起きた悲劇を知る間もなく、救助隊員に腕をつかまれ、救命ボートに乗り込んだが、その後ジオ・バレンツ号に乗り込むと、震える声でこう懇願した。「仲間たちの亡骸を見せてください。僕にとっては兄弟同然。同じ場所から来て、一緒にリビアを通過したのです。それぞれの家族に亡くなったことを伝えなければなりません。一目会わせてください」

過酷な経験をした生存者を安全な場所へ

ジオ・バレンツ号は 11 月 15 日と 16 日、マルタとリビアの捜索救助海域と公海内で 24 時間以内に 3 回の救助活動を実施し、186 人を無事救助した。生存者は男性 152 人、女性 34 人で、そのうち未成年者は 61 人。小さな子どもを連れた女性が何人もいて、一番幼い子どもはまだ 10 カ月だった。救助者の出身国はギニア、ナイジェリア、コートジボワール、ソマリア、シリアなど多岐にわたり、

その多くは、小さな木造船が出発したリビアで過酷な経験をしていた。

救助された人びとは、ジオ・バレンツ号に乗り込んだときこそ安堵して歓声を上げていたものの、急性のストレスや心的外傷の兆候が見られた。ほとんどの人は過酷な経験の後の恐怖を訴えていた。中には、数時間前に目の前で亡くなった弟や友人の遺体を確認しなければならない人もいた。

ジオ・バレンツ号で MSF のプロジェクト・コーディネーターを務めるキャロライン・ウィルメンは、「10 人の遺体を運ばなければならないこのような日には、欧州のやる気のなさを再び痛感します。地中海中央部では、献身的かつ積極的に搜索救助態勢を整える必要があるにも関わらず、政治は手を打とうとしません。リビアで人びとは恐ろしい人権侵害にさらされ、逃れるための唯一の方法が、地中海の横断という信じがたいほど危険な選択しかないことがほとんどです。今この船には亡くなった方の遺族を含む 186 人の生存者が乗船しています。何時間も狭い木造船の中で遺体に囲まれていた人びともいます。私たちは、極度のストレスと心的外傷を抱えた人びとを上陸させられる安全な場所の特定を急いでいます」と話す。

2015 年に海難搜索救助活動を開始して以来、MSF は 8 隻の救助船に医療チームを派遣。時には他団体と共同で船を運航し、合計 8 万 2000 人余りの人びとの救助にあたった。「ジオ・バレンツ号」は MSF が現在チャーターしている搜索救助船で、2021 年 5 月に活動を開始。現在、5 回目の活動のため、洋上に出ている。地中海中央部を渡る移民・難民の今年の死者・行方不明者は推定 1225 人に達した。この恐ろしく膨大な数字に今回、さらに 10 人が加わった。2014 年以降、同じ経路をたどった死者・行方不明者は累計 2 万 2825 人ほどに上る。


以上

本件に関するお問い合わせ先：

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当：舘 俊平、山田瑞穂

携帯：080-2344-0684

E-mail: press@tokyo.msf.org <https://www.msf.or.jp>

 メディア向けツイッターアカウント：@MSFJ_Press